

第2回 鷓川・沙流川 減災対策協議会 議事概要

日時：平成28年11月30日（水）13:30～15:25

会場：むかわ町産業会館（2F 第3会議室）

構成員：むかわ町長、平取町長、日高町長、

胆振総合振興局長、日高振興局長（代理出席）、室蘭地方気象台長、
北海道旅客鉄道（株）（欠席）、室蘭開発建設部長

《議事内容》

① 鷓川・沙流川減災対策協議会について

② 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく

鷓川・沙流川の減災に関する取組方針（案）について

- ・平成28年8月の大雨による出水に関する情報共有
- ・鷓川・沙流川の減災に関する取組方針の確認及び承認

③ 今後のスケジュール

《協議会委員からの主な意見》

【今夏の大雨対応等に関して】

（むかわ町長）

- ・鷓川では、10年ぶりに避難判断水位を超え、関係機関との連携、協力や河川情報をもとに避難勧告、避難所開設を行えた。室蘭開発建設部からのリエゾン派遣による各種情報の提供、また、水防資機材の貸与や排水ポンプ車による内水排除により浸水被害の軽減が図られ感謝。
- ・今回の対応で感じた課題は、深夜の情報発信の仕方、伝達の徹底があげられる。また、避難勧告発令に対する住民の危機意識の浸透がまだまだ少ないと感じている。
- ・鷓川での対応以外に土砂災害や2級河川の対応もあることから、それらに対する情報、連携についても考えていく必要がある。

（平取町長）

- ・避難勧告を夜中、夜明けの大雨が降る中で行ったが、避難に危険が伴うため、もっと早めの対応が必要と感じた。
- ・沙流川平取地区水害タイムラインの検討を進めており、防災関係機関との顔の見える関係が構築されていたため、今夏の出水では情報連絡が円滑に行えた。さらに精度を高めていきたい。

（日高町長）

- ・避難勧告を早く出すことを心がけている。今夏の9号台風では、日高町門別で浸水被害を受け、エリアメールを活用して避難準備情報の発信により大事にいらなかった。

- ・ 10号台風では、沙流川上流の日高山脈に雨雲が留まった状況で、下流は雨がほとんど降らず、上流は400mm以上の大雨となった。上流で大きな被害が生じているとは想像もつかなかった。避難に関しては、早め早めの対応を行ったが、住民へ早期避難を呼びかけてもなかなか避難しないものなので、日頃からの意識向上の取組が大事と感じた。避難を促す事前情報として、避難準備情報の発信は有効であると考えているので、引き続き、早期発信を心がけたい。
- ・ 沙流川（道管理区間）の氾濫の際は、国道274号の千呂露橋落橋にあたり、森林管理署による林道の開放、室蘭開発建設部の支援により、2週間と早い仮橋復旧には感謝。

（胆振総合振興局長）

- ・ 関係市町村からの情報収集、氾濫注意水位を超えた河川のパトロールの実施などを行うなど、道、振興局全体で情報共有を行い対応した。むかわ町への職員派遣は情報収集など有効だった。
- ・ 一連台風で胆振管内は、9号ではむかわ町などの東側、10号では西側で海岸被害、それぞれ特徴ある被害が生じた。道として災害復旧を進めていきたい。

（日高振興局長：代理）

- ・ 11号、9号、10号台風により、管内各町において被害が発生し、本庁では災害対策本部指揮室を設置、振興局では災害対策本部、災害対策連絡本部を設置し、情報収集及び関係機関への情報提供などを行った。
7月28日には浦河町へ情報連絡職員2名を派遣し、8月23日には日高町、平取町、新冠町及び新ひだか町へ近傍の出先機関から各1名を派遣し、情報収集に当たった。

（室蘭地方気象台長）

- ・ 7月下旬から大雨に関する対応が続き、台風説明会や各種警報等の発表、室蘭開発建設部との洪水予報発表、自治体との個別アドバイスなどの対応をした。
- ・ 台風第10号の雨は分水嶺を挟んでこちら側にどの程度流れるかなどの判断が悩ましかった。また、夜中のタイミングでもう少し雨が継続すれば、日高町長への直接の連絡も検討しながら対応していた。

（室蘭開発建設部長）

- ・ 排水ポンプ車による支援は、道路が通行止めになることを想定して、早めに配置する対応を行った。
- ・ 今夏の降雨は、短いスパンで対応を要したため、マンパワーを如何に休ませたり補給したりするところが難しい中、支援させていただいた。
- ・ 道路冠水時の避難行動や孤立などの課題に対応するためには、早めに行動をとることが必要と感じた。
- ・ 避難準備情報の意味が認識されていないことが課題。また、台風では風についても注意

喚起していくことが必要と考える。

【減災に関する取組方針に関して】

(むかわ町長)

- ・町の広い範囲に発信される気象情報の受け止め方に対して課題があると感じている。
- ・想定最大規模の浸水想定区域図の公表を受けて、室蘭開発建設部、振興局のご指導を仰ぎながら防災計画を見直すとともに、本格的なタイムラインの作成に向けて関係機関に協力いただきながら進めていきたい。
- ・高齢者等の要支援者の早めの避難行動に向けて、ネットワークを検討しており、進めていきたい。

(平取町長)

- ・ハード対策として、急峻で流域が広く、洪水調節施設として二風谷ダムだけでは不足しているため、平取ダム建設が予定どおり促進されることを切望。
- ・平成15年洪水の実体験から確実な避難の実施には、行政だけでは限界があると感じている。訓練等を通じ、自主防災組織の連携強化を図りたい。
- ・タイムラインの検討を通じ、防災関係機関とも顔の見える関係を築けたことが今後の対応にいかされ则认为。
- ・内水氾濫対応が課題であり、広い浸水域であることから、しっかり対応できるように排水計画について調整していきたい。

(日高町長)

- ・今夏台風における波浪、高潮で床上・床下浸水が発生したことを踏まえ、満潮時間とあわせて気象情報をいただくとありがたいと感じた。
- ・タイムラインは、防災行動を判断する上で有効な手段であると考えているため、作成に向けて検討を進めていきたい。
- ・全国の防災サミットに参加しているが、被害のあった自治体からの情報は勉強になる。機会があれば全道においても共有できる場があると良いと考える。

(胆振総合振興局長)

- ・ハードが整備されたことで安心し、避難しない意識を持っている方々が多いと聴く。末端までの意識浸透は難しいかもしれないが、常日頃からの防災教育は重要。
- ・振興局や市町村職員などによる実践的な防災研修を始めたところであり、市町との連携を積み重ね、住民へ徹底することを繰り返し行うことが重要。

(日高振興局長：代理)

- ・今夏の災害を踏まえ道では災害検証委員会が年内にとりまとめを行う予定であり、振興

局としても初動体制やリエゾンなどの見直しをしているところ。来年2月には振興局の指揮室運営訓練も予定しており、災害時にはいち早く情報収集体制を立ち上げ、関係機関との情報共有が可能となる機動的な体制作りに努めて参りたい。

(室蘭地方気象台長)

- ・ 防災気象情報の改善を試行している。例えば、気象予測を危険度によってバーチャートで色分けして分かりやすいように図にして提供しているし、5日先・明日までの警報級の可能性についても提供している。これらは試行結果を踏まえて、平成29年出水期までに正式運用を予定している。
- ・ 洪水警報の指標にしている流域雨量指数の精緻化や、地図上に危険な地域を表示するメッシュ情報なども検討している。

(室蘭開発建設部長)

- ・ 浸水による分断、孤立対応として自主防災組織のポテンシャルが高まってくると考える。
- ・ 居住地が山と川に挟まれているような生産空間を考える上で、土地利用と防災のコンパクト+ネットワークのような住み方や生産とのおりあいなども考えていくことも重要ではないか。
- ・ 洪水時、堤防は湿潤化するが、広い範囲で浸水するような地域では、堤防上が避難場所になる地域もありえると考ええる。
- ・ 浸水しやすいところは地盤高を上げる、使われないところは掘り下げてポンプ排水をくみ上げする場にするなど、水害に強い生産空間づくりの必要性を感じている。